

道

NO. 126

2012. 12. 11

文化祭の作文より 2組編

文化祭が終わって数日がたつ。二週間続けた一日二回の練習がなくなって悲しいような嬉しいような、ふくざつな気持ちだ。

思えば二週間前、二組の歌は決して良くなかった。歌詞を間違え音程を外し、不安がつのるような有様だった。自分もその一人だった。そんな二組と自分も、一週間で過ぎると形になっていった。

しかし自分は痛恨の一撃を受けた。風邪を引いた上に、体育で右ひざをけがしてしまった。三日も練習を休んだ結果、やっと覚えた歌詞はあいまいになってしまった。

そのまま迎えた本番、自分は心配だった。金曜日になんとか整えたが、右のけがはそのままだ。こんな状態で最前列に立てば二組は負けてしまうかもしれない。自分は痛みをこらえて直立した(後で反動がきたが)。そして歌った。実は歌詞を一カ所間違えていた。それでも二組は優勝した。お荷物をぶら下げた状態でも勝ってしまう二組の皆は本当にすごい。

自分はあの文化祭で「やるときはやる」ということを学んだ。二週間の努力を一日にぶつけるのと同じく、二月の入試に向けてこつこつと頑張っていきたい。

文化祭が終わって 渡部 雅晶

向島中学校ラストの文化祭、三年間の中で一番の思い出となった。

活動は、三週間前から始まった。合唱の朝の練習は毎日行った。合唱は最初の方やる気がなかった。金賞を取る気がなかったし、3-2は学年で一番団結力のないクラスだったから。でも、奥井先生の顔を見るといつも真剣で「あ、奥井先生に金賞あげたい。」と強く思った。男子は知らないけど、女子のみんなは私と同じく思ってる子がほとんどだったから途中からみんなの目の色が変わった。本番まで、よい感じになってハブニングとかもあったけど、全ては本番。そして3-2が歌う時が来た。会場が「シーン」として自分のクラスの歌声が響き渡っていた。これが最後なんだと思いつつ歌うと、泣けてきて悲しくなった。無事、歌い終わると安心感で笑いが止まらなくなった。奥井先生が泣いていたから、これは金賞だ

など思った。案の定金賞は3-2。すごくうれしくて涙が出た。すぐにふいたけど。

もう戻ってはこない中三の最後で最初の文化祭。奥井先生に金をあげられて本当によかった。少しまた、3-2の絆が深まったような気がした。卒業まであと少し。大きな行事は全て終わったから、受験がんばる。

二度と戻らない中三の文化祭 菊池 梨菜

自分達は、9月ごろから文化祭の取り組みが始まり、10月27日まで一生懸命がんばってきました。三年生でソーラン節を踊る人は9月の最初の頃から始まり、CDの編集から振り付けまで自分達で作ってきました。最初は全然踊れなくて本番までに完全にコンプリートできるのかとても不安で心配でした。連合陸上に出る人もいて、その人は大変だったと思います。練習時間は1時間しかない中で皆コンプリートできていました。

10月に入ってから合唱コンクールの歌の朝練が始まり、放課後にはソーランの練習に行くというとてもハードなスケジュールでした。歌の方は男と女の仲が良くなって団結力がないと思っていました。自分の思いは「絶対金賞なんか夢のまた夢だろ」と思っていました。2週間前になっても声がなかなか出ず、女子の方は声がとても出ているのに何で男子は声が出ないんだろうと思いました。女子にはとても迷惑をかけたと思い、野澤君と上岡君のパートリーダーを中心にのぼすところはちゃんとのぼすようにしたりするなどして、本番前日までがんばってきました。

当日、午前の部に合唱コンクール。午後の部にロックソーラン節がありました。合唱コンクールで三年生の出番が来た時、とても緊張しました。二組が一番最後なので最後まで緊張していました。二組の出番が来たとき、舞台上がって「自分らしく」を歌いました。歌い終わって席に帰るときにすごくホッとしました。

そして、ソーラン節です。自分は最後にセンターでおどり、最後に皆で「やー!!」というタイミングを自分が「せーの!」とやってしめる役を任せられました。成功した時に涙が出そうでとても感動しました。

向中として最後の文化祭を最高にしめれてとてもうれしかったです。後輩にも新しい学校で自分たちよりもっと盛り上げてほしいです。

それから金賞がとれてびっくりしたし、実感がわきませんでした。自分は無理だろうなと思ったからとてもうれしかったです。

文化祭が終わって 宮林 大智

今回の文化祭はとても楽しみだった。なぜなら三年はソーラン節をやるからである。おとしと昨年先輩のソーラン節を見てきてずっと楽しみにしていたので、なんとしてでもすばらしいものをつくりたかった。

今回は約70人がソーランに参加していて、この多人数がそろって踊れば、すごい迫力に

なと思っていたのでわくわくしていた。そして、ソーランの活動が始まり。私を含め約15人ほどがリーダーになった。今年はいろいろとアレンジしようと思っていたから入場から振り付けまで全て作り直した。結構時間はかかったがいいものが完成した。難しいところもあり、これを全部教えて、覚えるのは大変かと思っていたが、みんな飲み込みが早く細かいところまで極めることができた。そして全員が主役になれるよう、ソロの部分などをつくっていたら、音楽が足りなくなってしまった。だけど先生の協力で音楽自体をも編集した。ここまでするとは思わなかったが、やれることは全部やった。体育館練習が少なく流れを確認できる機会があまりなかったのでそこが少し不安だったが、みんなで一丸となり練習に励み本番を迎えることができた。このソーラン節は見どころが多く、アクロバットや塔、ウェーブなどで、見ている人全員が楽しめるようなものになっていた。本番では全て成功し、注意されていた声なども完璧でやっているこっちもすごいと思えるほど、迫力のあるものを踊ることができた。

今回ソーラン節は、踊る人の他にたくさんの人の協力があったからできたものなので感謝した。

向中最後の文化祭にふさわしいものになったと思う。

文化祭 渡邊 みく

道

NO. 128

2012. 12. 17

入試相談の終了とともに・・・！

2回目の面談が終了し、大まかに進路の方向性が決定し始めてきたのと同時に先週の15日(土)から私立高校の入試相談が開始されました。この日は、3年の先生たちを中心に朝から高校を訪れたり、みんなの下校後に訪れたり学年の誰かが希望した高校へと散らばって行きました。こうした状況の中での心構えや行動そして、意識はすでに”道”で確認してきましたが、どうやらみんなの協体制度はできていたようでした。こうして推薦を希望した者、一般受験を希望した者のようやくだどりついた自らの進路へ向けて、残された時間を有効に使って行って欲しいと思います。(もちろん、今週も入試相談に出かけることになる場合もあることを知っていて欲しいと思います。)

そこで、今の状況とこれからの状況に触れてみたいと思います。進路の方向性が定まり、推薦を希望した者は入試相談で希望した方向性が内定した人が多いことと思います。だからといって安心し過ぎたり、第一志望がおろそかになってしまったりしてはいけません。もちろん色々なことから第一志望ではなく、その他の道を選んではいけないというわけではありませんが、気を緩めてはいけないということです。また、2回目の面談でも、進路の方向性が決まったからといって、すでに入学した気分になってしまったりは・・・いけません。これからの時期は、ようやく見つけた自分の進路を確実にするために詰めの段階です。だから、とにかく学習を進めること。確実な実力を身につけ、自分の力で合格を勝ちとることということです。

また、来年の1月の後半から2月の23日に予定されている都立学力検査までのことを考えてみてください。私立の第一志望入試が1月22日、都立の推薦入試が1月末。この時になると、私立の第一志望を希望した人はとんでもないことが起きない限り合格

内定となります。そして、都立推薦を希望した人の中から合格と不合格が必ず出るようになります。合格した人はいいいのですが、不合格となってしまった人の心理状態はどうでしょうか？(実際、ここで動揺するような場合は都立推薦を希望しない方がいいと思うのですが・・・)そして、私立と都立の一般に照準をしぼっている人が控えている状況。まさに教室や学年フロアの中は、すでに合格内定した者と不合格となってしまった者そして、受験をこれから控えている者の入り混じった空間になるのです。だから、以前にも書きましたがよっぽと言動に注意しないと、これから受験を控えている人に不安を与えたり、不合格となってしまった人を傷つけたりしてしまうことが有り得ます。それだけでなく、一般に照準をしぼっている人は不安な時期。そうだと分かっている、周囲の中で合格内定者が出たことにより、要らぬ不安が頭を持ち上げることで有り得るのです。だからなおさら、自分が自分を大切にだと思っているのと同じぐらい一緒に活動してきた仲間たちへの配慮をして欲しいのです。

これからの時期・・・。

- ①自らの学力を高めるために、とにかく自分自身を追い込んで学習を進めること。
- ②周囲の存在を忘れずに、自分と同じぐらいに周りの人の存在を大切にすること。

が重要です。とにかく、学年フロアに掲示された受験応援メッセージ(励ましの絵馬)のようにみんなで乗り切って行って欲しいと思います。

これからの2ヶ月は、詰めの時期です！

自分自身に立ち向かって

追い込みをかけよう！！

みんな一緒です！

私物を持ち帰ろう！

今週で今年の登校も終了することになります。来年は、みんながいよいよ卒業する年、そして新しい未来に向かってはばたく年となります。気持ちを切り換えていきましょう。そして、1年の終わりに私物を持ち帰ることにしましょう。